

倉敷市芸文館開館記念
岡山県郷土文化財団

倉敷管弦楽団 特別演奏会



1993 11/27 (土) PM6:30
倉敷市民会館

11/28 (日) PM3:00
玉島文化センター

主催／岡山県郷土文化財団、倉敷市文化振興財団
倉敷市、倉敷市教育委員会、倉敷市文化連盟
後援／玉島ライオンズクラブ、玉島文化協会

ごあいさつ

倉敷市長 渡邊行雄

このたび、倉敷管弦楽団特別演奏会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、倉敷管弦楽団の皆様方におかれましては、平素より、定期演奏会をはじめ、多くの演奏活動を通じて、本市文化の振興に多大なご尽力を賜り厚くお礼を申し上げます。

私は、本市文化の振興を図り、「夢のある倉敷」を実現するため、(財)倉敷市文化振興財団や倉敷市芸文館を中心とした文化行政の整備充実や倉敷音楽祭など、種々の文化振興施策を展開しているところでありますが、皆様方の多彩な演奏活動は地域文化の振興にとってたいへん意義深いものであります。

本日の演奏会では、ソリストとしてヴァイオリンの漆原啓子氏をお迎えすると伺っておりますが、倉敷管弦楽団の魅力に一層花を添える素晴らしい演奏が繰り広げられるものと確信いたしております。

どうか、ご来場の皆様方も、オーケストラの魅力を存分に堪能していただきますようお願い申し上げます。

おわりに、倉敷管弦楽団特別演奏会のご盛会と皆様方の今後ますますのご活躍、ご発展を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。



●歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲……………格林カ

●ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調……………ブルッフ

第1楽章	アレグロ・モデラート
第2楽章	アダージョ
第3楽章	アレグロ・エネ르기コ

———— 休 憩 ————

●交響曲 第9番 ホ短調「新世界より」……………ドボルザーク

第1楽章	アダージョ — アレグロ・モルト
第2楽章	ラルゴ
第3楽章	スケルツォ
第4楽章	アレグロ・コン・フォコ

曲目解説

◆歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

古代ロシアのキエフ公国で、公の愛娘リュドミラが悪魔にさらわれました。3人の騎士がこの姫を救いに競って出かけ、さまざまな冒険の末最後にルスランが彼女を救い出して結ばれる、という楽しいオペラの序曲です。物語の内容にふさわしく、速いテンポで活気にあふれる華麗な音楽です。

◆ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番

ブルッフは19世紀の後半にドイツで活躍した作曲家で、多くの要職につき数々の栄誉を与えられて幸せな一生を過しました。彼の数ある作曲の中でもこの曲は特に有名で、メンデルスゾーン、チャイコフスキーらのヴァイオリン協奏曲と並ぶ名作とされています。第2楽章の感傷的な甘いメロディが印象的です。

◆交響曲第9番「新世界より」

500年前にコロンブスがアメリカを発見するまでヨーロッパにはアメリカ大陸の存在は知られていませんでした。このためヨーロッパから見ればアメリカは正に「新世界」であるわけです。ドボルザークは1892年に故郷のボヘミアからアメリカのナショナル音楽院の校長に赴任して行きました。そして「アメリカ大陸から故郷の人達に送る印象記」と題してこの交響曲を作曲しました。第2楽章のはじめにイングリッシュホルンで演奏されるメロディは特に有名で、後にこれだけをとりあげて「家路」と題する歌曲ができました。昔玉島のミュージックサイレンが、そして今岡山県庁のミュージックサイレンが毎日午後5時にこのメロディを流しています。

倉敷管弦楽団

「美しい音色と良いアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に昭和49年設立の倉敷管弦楽団は、文化都市倉敷にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団です。バロックから現代曲までの幅広い演奏活動で昭和57年には岡山県文化功労賞、昭和60年には倉敷市文化連盟賞を受賞し、将来を大きく期待されています。

フルートの世界的巨匠ジャン・ピエール・ランバル氏との共演をはじめ、ヴァイオリンの和波孝禧氏、前橋汀子氏、豊田弓乃氏、景山誠治氏、ピアノの深沢亮子氏、伊藤恵氏、チェロの岩崎洗氏、安田謙一郎氏、山崎伸子氏、オーボエのディーテルム・ヨナス氏、トランペットの津堅直弘氏、ギターの新田進一氏、又岡山県内で活躍中の音楽家達との共演や、團伊玖磨氏作曲の「管弦楽のための高梁川」の初演、創立10周年記念の400名から成る第九演奏会、オペラではモーツァルトの「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」、ビゼーの「カルメン」、J.シュトラウスの「こうもり」フンパーディンクの「ヘンデルとグレート」、プッチーニの「蝶々夫人」等数多くの舞台をうけもっている。又15周年を記念して「三枝成彰with倉敷管弦楽団スーパードリーム・ジョイントコンサート」を行ない、倉敷音楽祭では、瀬戸大橋開通を記念して小六礼次郎氏作曲の交響詩「瀬戸内讃歌」の発表、ミュージカル「11匹のネコ」総勢430名からなるショスタコーヴィッチのオラトリオ「森の歌」を大成功におさめるなど、多彩な演奏活動を続けています。



〈指揮〉

きくち とう
菊池 東

昭和23年 玉島に生まれ 5歳の時よりヴァイオリンを始める。在学中、広島大学室内合奏団の指揮者としてクラブ活動を続けるかたわら広島交響楽団の団員として活躍。

広島大学工学部卒業後 上京し 東京都民交響楽団のサブコンサートマスター、モーツァルト室内管弦楽団のコンサートマスターetcを経験し昭和48年帰岡。昭和49年、仲間と共に倉敷室内管弦楽団（現倉敷管弦楽団）を創設。以来現在まで19年間にわたり同楽団の常任指揮者として、倉敷を中心に岡山・新見・高梁・総社・日生・瀬戸・真庭・坂出など各地で演奏会を開催する。

本年3月には倉敷音楽祭においてオーケストラ110名合唱320名からなるショスタコーヴィッチのオラトリオ「森の歌」を指揮し好評を得る。又ヴァイオリン奏者としてリサイタルの他倉敷音楽協会、玉島蔵の中コンサートetcの演奏会でソロ・室内楽の演奏活動も続けている。



〈ヴァイオリン〉

うるしばら けいこ
漆原 啓子

1963年東京生まれ。3歳よりピアノ、6歳よりヴァイオリンを始める。

1978年、日本音楽コンクール第3位入賞、翌年東京芸術大学付属高校入学、海外派遣コンクールで松下賞受賞。80年には毎日新聞主催のデビュー・リサイタルを行う。

さらに81年には、ヴィニアフスキ国際コンクールで日本人初の第1位優勝、あわせて6つの副賞も獲得する。

1982年、東京芸術大学に入学、本格的に演奏活動を開始する。83年、「若い芽のコンサート」でN響と初共演。ポーランドへ招かれ、演奏会、テレビ出演を行い大成功を収める。

レコード・デビューは85年5月、フォンテックより「チャイコフスキー／ヴィニアフスキ小品集」を発売。また、前年4月に結成した「ハレー・ストリング・カルテット」が第21回民音コンクール室内楽で優勝並びに斉藤秀雄賞を受賞する。この年、モスクワヴィルトーゾ室内オーケストラ（音楽監督・指揮：V・スピヴァコフ）の日本公演の際にソリストをつとめる。

88年、ハンガリー国立交響楽団日本公演の際にソリストをつとめ、好評を得る。この秋、ピアニストの迫昭嘉とベートーベンのソナタ1、5、7番をレコーディング。

93年1月には、ヤン・パネンカとのブラームスのソナタ全曲のCDがリリースされ、高い評価を得ている。

現在、リサイタル、室内楽、ソロ活動と多方面に活躍中の、最も期待されるヴァイオリニストの一人である。

岡山県郷土文化財団

岡山県郷土文化財団は、私たちの手で郷土「おかやま」の美しい自然や先人から受けついで文化遺産を大切に護るとともに、伝統に根ざした新たな地域文化を創りあげてゆくため、昭和54年11月に設立されました。

発足以来、多くの方々の御協力をいただき「うるおい」と「やすらぎ」のある郷土づくりに役立てるため、各種の事業を実施してまいりました。これからも、県下各地域の皆様と手を携え、より多くの力を結集し、豊かな郷土づくりを目指してまいります。

一人でも多くの方々に会員になっていただき、これらの事業に積極的に御参加くださるようお願いします。